

## 上尾皮膚科



### 【医療機関の先生方・市民のみなさまへ】

上尾皮膚科は1980年に故・上尾巖が開院しました。私は2006年に父より医院を引き継ぎました。皮膚疾患は、湿疹や水虫といったクリニック内で完結する軽症のものから、重症薬疹や悪性黒色腫といった専門医療病院で治療を要するものまで様々です。クリニック内で解決できない疾患も多くあり、それらを見分けることが大切になります。そのため最近、「どのような皮膚疾患が病診連携を必要とするのか」というテーマで3年間のカルテをもとに研究論文を書きました。その結果、帯状疱疹・薬疹・蜂窩織炎は緊急紹介(受診当日もしくは翌日の紹介)を、皮膚良性腫瘍・皮膚悪性腫瘍は一般紹介を要するものであることが明らかとなりました。数は少ないものの、水疱症・血管疾患・膠原病も紹介が必要となることが多いです。この情報は皮膚科医のみならず、他科の先生方や市民の皆様にもお役に立てるものと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

### 院長からひとこと

皮膚科の一次医療の役割を果たせるように努めます。



医療法人 上尾皮膚科

〒876-0831 大分県佐伯市大手町3丁目3-8

診療科／皮膚科  
院長／上尾 大輔

## 連携医療機関の紹介

### 【医療機関の先生方・市民のみなさまへ】

婦人科と聞くと、不正出血や下腹部痛、月経(生理)や更年期に伴う症状の相談を思い浮かべる方が多いかもしれません。しかし実際には、外陰部(デリケートゾーン)のかゆみや痛み、できもの、尿漏れや陰部の下垂感、性に関する悩みなど、幅広い症状に対応しています。近年増えているのが、糖尿病や心不全の治療に使われるSGLT2阻害薬を服用中の方にみられる外陰部のかゆみです。糖を含む高浸透圧尿による肌荒れや真菌性皮膚炎が主な原因で、お薬と皮膚炎の関連に気づかず悩んでいる方や、主治医の先生になかなか言い出せずに我慢している方も少なくありません。SGLT2阻害薬は大変有用なお薬です。適切なケアをすることで快適な生活を送れます。また、外陰部の帯状疱疹も決して珍しくはありません。受診が遅れると治療に苦慮することもあります。予防接種と早期診断・治療が大切です。「こんなことで受診していいのかな」と迷う前に、どうぞお気軽にご相談ください。

医療法人 光和会 ひなた女性クリニック

〒876-0836 大分県佐伯市西谷町1-27

診療科／婦人科(産婦人科専門医、女性医学専門医)  
院長／谷口 久枝



## ひなた女性クリニック



contents

- P1 新年のご挨拶
- P2 診療科紹介 放射線科
- P3 認定看護師紹介
- P4 連携医療機関紹介  
上尾皮膚科、ひなた女性クリニック

2026.2  
vol.33



## 新年あけましておめでとうございます。



南海医療センター院長  
兼 附属介護老人保健施設長  
もりもと あきお  
森本 章生

JCHO南海医療センター新病院は2020年1月1日より新病院での診療を開始し、今年で7年目に入りました。新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まった年で、この後数年にわたり対応に追われたことを思い出します。さて、新病院完成とともに始めたことの一つとして、毎年門松を作成していますので紹介します。松・竹・梅・葉牡丹などを調達し、土台はドラム缶を使用しています。最初は、四苦八苦しながらの作業でしたが、最近では手際が良くなり、完成までかなりの時間短縮をすることができています。来院される方々に少しでも喜んでいただければと今年も作成しました。

急性期医療を担う中核病院、地域支援病院として佐伯市の地域医療を支えてまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



南海医療センター

〒876-0857 大分県佐伯市常盤西町7-8 <https://nankai.jcho.go.jp/>  
TEL 0972-22-0547(代表) FAX 0972-23-4083



## 診療科の紹介

# 放射線科

放射線科 部長 宮本 脩平 医師

## 画像診断とIVRによる低侵襲医療

当院放射線科では、CT・MRIを中心とした画像診断に加え、画像下治療(IVR)を積極的に行い、診断から治療まで一貫した医療を提供しています。診断領域では、各科からの依頼に対し、迅速かつ確かな読影所見の共有を行い、治療方針決定に必要な情報を分かりやすく提示することを重視しています。

IVR領域では、肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法(TACE)やラジオ波焼灼療法(RFA)を実施し、腫瘍の局在や肝機能、全身状態を踏まえて、最適な治療選択を関連診療科と相談しながら進めています。

また、閉塞性黄疸や胆道感染症に対する経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)、急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢ドレナージ(PTGBD)、さらに各種経皮的膿瘍ドレナージなど、感染・炎症性疾患に対しても低侵襲に治療介入し、全身状態の改善と早期治療につなげています。

外科・消化器内科をはじめとする関連診療科、多職種と密に連携し、適応判断から周術期管理まで安全性を最優先に対応します。緊急症例にも柔軟に対応し、迅速な画像診断と治療への橋渡しを担うことも当科の重要な役割です。今後も地域の医療機関の先生方と連携し、安心してご紹介いただける放射線科を目指してまいります。IVR治療や画像診断に関してご相談がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

放射線科 部長 宮本 脩平



(筆者：写真左)



皮膚排泄ケア認定看護師

大畑 直子

創傷やストーマ、失禁に関する苦痛を少しでも緩和し、患者さんとご家族、関わる職員を笑顔にすることを目標に活動しています。佐伯市は高齢化率が40%を超えています。介入する患者さんも高齢の方が多くいらっしゃいますが住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるように多職種と連携を図り活動してまいります。



感染管理認定看護師

中野 智美

感染管理認定看護師として、院内感染の予防と対策に取り組んでいます。患者さんやご家族、職員の皆さんが安心して過ごせるよう、現場の声を大切にしながら、分かりやすく温かい支援を心がけています。感染症について、感染対策について困ったことなどあれば、ぜひご相談ください。

## 熟練した技術と知識を活かした看護ケア —— 認定看護師の紹介 ——

認定看護師とは、特定の看護分野で熟練した看護技術と知識を持ったスペシャリストのことです。看護現場において、実践・指導・相談の3つの役割を担っています。

Specialist



認知症看護認定看護師

廣瀬 晃子

病棟に勤務しながら、部署訪問や認知症ケアチーム会や事例検討などの活動を行なっています。常に心掛けていることは、その人らしさを尊重した支援です。認知症の人は言葉や動作など「できる力」は多く残っています。色々な職種が情報を共有しながら、皆で認知症の人の代弁者となり、できるだけ元の場所に退院できる支援に取り組んでいます。



緩和ケア認定看護師

赤峰 裕子

緩和ケアは終末期に限ったことではなく、様々な病気で治療を受けながら生活する中での体のきつさや心のつらさを和らげ、ご自身が望む日常を過ごしていただくことを目的としています。患者さんやご家族と一緒に様々な職種の病院スタッフが話し合い、考え支援していきます。ぜひお気軽にお近くの当院スタッフへお声かけください。



感染管理認定看護師

三股 阿沙美

私は、手術室に勤務しながら、感染管理認定看護師として活動しています。医師や看護師など多職種と協働して、手術室での感染対策に取り組んでいます。近頃は、災害時の感染対策にも関心があり、災害支援ナースの研修にも携わり、学びを深めています。